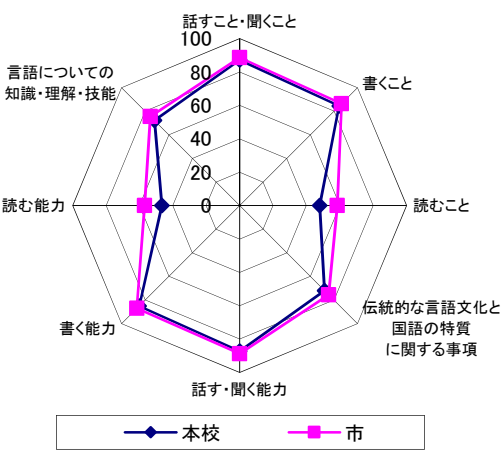


宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	87.2	88.7	89.1
	書くこと	84.4	86.4	64.2
	読むこと	48.0	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.0	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	87.2	88.7	89.1
	書く能力	85.1	87.1	66.7
	読む能力	46.5	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	72.1	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

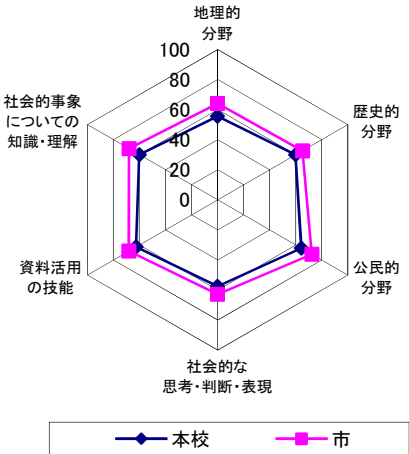
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	正答率は87%と高いが、宇都宮市よりやや低い。 ○聞くことの設問は3問合わせて8割以上で高い。話すことの設問は記述式であるにもかかわらず、正答率は9割以上と高い。	・様々な場面を設定した言語活動を多く取り入れ、相手や場面を意識した話し方、聞き方ができるような授業展開を行う。特に、話の内容を理解してもらうための、工夫点を意識して話させ、その工夫点を聞き取らせたりする活動を取り入れる。 ・授業の中で、聞き取りテストを定期的の実施しているが、今後も継続していく。
書くこと	正答率は宇都宮市よりやや低い。 ○自分の考えを書く設問は8割以上の正答率で、他自治体より15%以上高い。74%の正答率で、市の平均より6%低い。	・書くことに抵抗がある生徒を減らしていくため、書く機会を増やしていく。少ない分量の文章を書くことから訓練し、長文がしっかりと書ける力を育成する。 ・構成メモ等を用い、段落構成を意識させたあと、文章を書かせていく。読むことの授業とも結びつけて、文章の構成を意識させていく。
読むこと	正答率は宇都宮市より10%低い。 ●説明的文章の展開に即して内容や要旨を捉える力が低い。特に、文章構成を捉える設問は、正答率が23%と低い。文学的文章では人物の心象や情景描写を捉える力が低い。	・文章の表現描写に注目させ、その効果や作者のねらいなどを考えさせて読ませる。人物の心情を読み取る際に、裏付けとなる言葉や行動などのポイントを明確に指導することで、さらなる力の育成を目指す。 ・書くことの授業とも関連させ、豊かな描写を意識させたり、段落構成を意識させたりする。 ・読み取るための基礎となる語彙力を高めさせるために、辞書の活用を習慣化させていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	正答率は宇都宮市より低い。 ○漢字の読み書きは設問の平均で8割以上と高い。対義語類義語の設問は正答率85%と高い。 ●古文の設問は市平均より10%低く、内容の展開に即して内容を捉える力が低い。文法の用言に関する設問は、正答率が5割を下回った。	・授業の中で漢字の小テストを定期的の実施したり、漢字を学習するための時間を意識的に増やしたりしていることが成果を上げているので、今後も継続していく。 ・古典に抵抗のある生徒には、基礎的な力をつけるため、音読を重視したり、重要な語句の意味をしっかりと覚えさせたりする。また、主語を確認したり、作者の思いを捉えるための表現に着目させたりし、内容の理解に結びつけたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	55.6	64.0	50.9
	歴史的分野	59.9	65.3	57.1
	公民的分野	64.3	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.6	62.9	52.3
	資料活用 of 技能	62.6	68.2	58.1
	社会的事象についての知識・理解	60.0	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

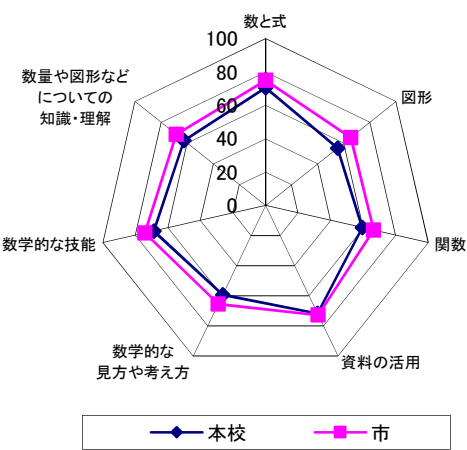
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●地理的分野では、宇都宮市より8ポイント下回っている。 ●短答式で、ツンドラ・サンベルト・北方領土を正答とする問題では、正答率がそれぞれ宇都宮市を下回っている。 ●記述式で、エネルギーに関する資料をもとに、環境問題を考察する問題でも、正答率が宇都宮市を下回った。 ○大問1の「世界の宗教について、資料をもとに把握する問題」では、正答率が宇都宮市をやや上回った。	・「資料活用 of 技能」向上のため、諸資料の読み取りの際には、分布や変化・推移等の視点を明示し、ICT機器(デジタル教科書・拡大投影器等)の有効活用により、複数の資料を考察させるよう留意する。 ・「世界各地の人々の生活と環境」・「世界の諸地域」においては、気候・宗教等と生活の関連性に注目させ、諸地域の特色を顕著に象徴する諸資料(地図・雨温図等)提示により、自然・産業・環境・エネルギー等の特性を把握させ、他地域との共通性や相違性を認識させる。 ・「日本の姿」においても、資料の効果的提示により、日本の位置・領域についての理解を深化させる。
歴史的分野	●歴史的分野では、宇都宮市より正答率が5.4ポイント下回っている。 ●短答式で、院政・ポルトガルを正答とする問題では、正答率がそれぞれ宇都宮市を下回っている。 ●記述式で、天平文化の特色を、資料をもとに考察する問題でも、正答率が宇都宮市を下回った。 ○大問6の「キリスト教伝来に関する宗教改革について判断する問題」では、正答率が宇都宮市をやや上回った。	・「社会的な思考・判断・表現」向上のため、言語活動(話し合い活動・討論等)の実践を展開し、言語はもとより、文章表現での取組も継続する。 ・「古代・中世・近世」の学習において、時代ごとの特色を他の時代との比較を通して考察させる。政治・社会・文化・活躍した人物の業績等、各時代を象徴する社会的事象に注目させ、史実を把握させる。
公民的分野	●公民的分野では、宇都宮市より正答率が8.1ポイント下回っている。 ●短答式で、議院内閣制を正答とする問題では、正答率が宇都宮市を大幅に下回っている。 ●記述式で、公共の福祉について、資料を参考に自分の言葉で表現する問題でも、正答率が宇都宮市を下回った。 ○大問8の「憲法改正の手続きについて判断する問題」では、正答率が宇都宮市をやや上回った。	・「社会的事象についての知識・理解」向上のため、学習課題の明示や小单元ごとの振り返り活動の重視、定期テストの有効活用等の方策を促進する。事象の表層的な理解ではなく、事象間の相関、因果関係にも留意させ、理解を深化させる。 ・「わたしたちの生活と現代社会」・「人間の尊重と日本国憲法」・「現代の民主政治と社会」において、諸制度のしくみや用語について、内容を十分理解した上で、言葉で表現する学習を充実させる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.7	75.0	70.3
	図形	55.3	65.2	63.4
	関数	59.4	66.4	51.5
	資料の活用	71.7	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	59.3	65.5	55.1
	数学的な技能	68.7	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	62.5	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

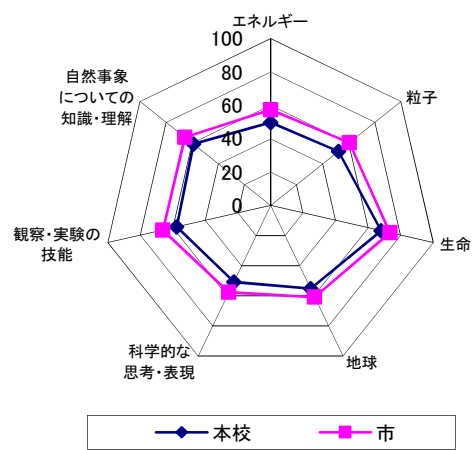
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○3年で学習した内容の、展開や因数分解の正答率は宇都宮市の平均値と同程度である。 ●1, 2年生で学習した計算問題の正答率が、宇都宮市の平均値よりも低いものが多い。	・1, 2年生の内容の問題を授業の中に取り入れたり、宿題などの課題として提出するなど、復習する機会を積極的に増やしていく。
図形	○作図や図形の移動の問題はよくできている。 ●すべての問題で、宇都宮市の平均を下回っている。特に図形の合同、相似の証明に関する問題では、約10%下回っているものもある。	・合同や相似の証明が苦手な生徒に対して、習熟度別学習にて基本レベルの証明を繰り返し取り組ませるようにしていく。
関数	●宇都宮市の平均値よりも7%低く、比例の関係を式に表す問題では、約10%下回っている。	・関数に対するの苦手意識が強くあるので、式、表、グラフの関係をそれぞれの関数で捉えさせるためにも、定着度の低い生徒に対して、習熟度別学習でたくさんの問題に取り組ませて定着を図る。 ・レベルに合わせた応用問題を用意し、式やグラフを使って問題を解くことの有用性を感じさせる。
資料の活用	○市の平均値とほぼ同程度の正答率である。2つのさいころを用いて確率を求める問題では、市の平均値を約4%上回っている。 ●球を取り出すときの確率を求める問題では、市の平均値を約10%下回っている。	・いろいろな場面における確率の求め方の定着を図るために、身近な場面で起こりうる事象を用いて、授業の中で問題に興味を持たせながら数多くの問題に取り組ませるようにする。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	49.8	57.5	51.6
	粒子	52.2	60.3	53.0
	生命	67.9	73.4	67.9
	地球	55.2	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	50.8	57.7	51.5
	観察・実験の技能	57.7	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	59.1	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

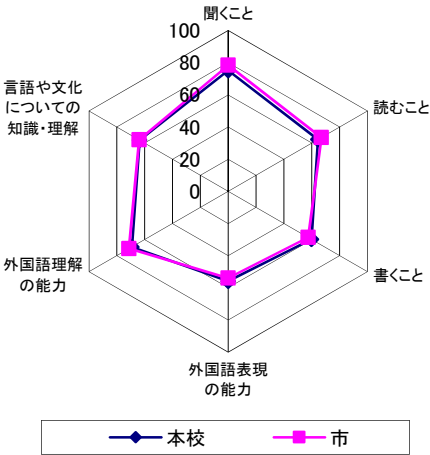
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・宇都宮市より低い正答率である。 ●仕事とエネルギーの仕事率を求める式の短文問題や物体と同じ大きさの像がうつったときの規則について考える問題に対して、市の正答率の平均より10ポイント以上低い結果となっている。	・授業の中で、科学的な思考・表現を意図した、設問などを多くしていきたい。また、基礎、基本の定着をはかるために、授業のはじめなどに光やオームの法則の利用、仕事とエネルギーの問題練習を繰り返し解く時間を確保していきたい。
粒子	・宇都宮市より低い正答率である。 ●質量パーセント濃度を求める式の選択問題では、20ポイント以上低い結果となっている。 ○水溶液とイオンの電流が流れる水溶液かどうかを判断する問題では、市の正答率とほぼ同等であった。	・1年生の水溶液の性質や2年生の物質の成り立ちの単元では、知識・理解の観点の問題が十分に定着が図られていなかったため、知識・理解が定着できるように指導の工夫をしていきたい。また、粒子の領域では、目に見えないため、可視化を図るためにモデルの概念やICTなどの活用を努めてきたい。
生命	・宇都宮市より低い正答率である。 ●遺伝の規則性と遺伝子の、子の代の種子の遺伝子の組み合わせを考える問題では、10ポイント以上低い結果となっていた。 ○動物の分類と生物の進化では、脊椎動物の分類では、数ポイント市の正答率より高かった。	・主たる観点の知識・理解の問題で十分な定着が図られていない。授業の中で、基礎・基本的な用語や問題を繰り返し解くなどの反復学習を行うなど、指導の工夫などを図ることにより、定着を図ってきたい。
地球	・宇都宮市より低い正答率である。 ●部屋の温度が上がると湿度が下がる理由を説明させる記述式の問題では市の正答率が10ポイント低い結果となっている。	・1, 2年生の内容についての内容が出題されているが、十分定着していない。そのため、3年生の授業の中で、関連する内容の学習のときに、復習する時間を随時設けるなどして、学習内容の定着を図ってきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	75.1	78.4	72.9
	読むこと	64.4	66.9	63.2
	書くこと	59.8	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	55.8	54.0	51.1
	外国語理解の能力	69.1	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	63.8	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●聞くことに関する正答率は宇都宮市より3.3ポイント低い。 ●対話の内容を聞き取り、許可を求められた内容に適切に回答する問題での正答率が宇都宮市より10.5ポイント低い。 ○スピーチの内容を聞き取る問題では宇都宮市の正答率をわずかに0.3ポイント上回っている。	○友人のスピーチを聞き取る活動の成果が表れている。 ・授業の中で許可を求める場面等を作り、応答させたり、日常のやりとりに変化をつけて、会話を養う。
読むこと	●読むことに関する正答率は宇都宮市より2.5ポイント低い。 ●語形や語法を読み取る問題で、宇都宮市より14.5ポイント低い問題がある。 ○長文の読み取りでは内容を把握する問題で、宇都宮市より2ポイント上回っている。	・語形や語法を理解する活動後に語形や語法を意識しながら文を読む活動で読み取り力を養う。 ・いろいろな場面を設定した英文を読み取る活動を行う。
書くこと	○書くことに関する正答率は宇都宮市より2.3ポイント高い。 ○3文以上の英作文に関して、テーマに沿って3文まで書けている生徒が宇都宮市より6.2ポイント高い。 ●単語を正確に書く問題や英文を正しい語順で答える問題の一部で宇都宮市より下回る。	・3文以上の英作文は授業の活動の成果が表れている。 ・1年2年時の内容で定着していない語形や語法が見られるので、3年時でも復習を行う。

宇都宮市立瑞穂野中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの作成 (家庭学習の充実と継続を求めて) ・論理的に考え、思考を深め合う学習	・自主学習ノートの活用 毎日1ページ以上を目安とした自主学習ノートを作成する。 ・学芸委員による生徒目線での働きかけ、学芸委員が自主学習ノートの提出状況を記録し、定期的に「自主学習優秀賞」の委員会表彰を行う。 ・速く正確に読み取り、他の考えをきちんと聞き取り論理的に言語表現するなどの「共に学ぶ力の育成を目指した授業」を推進する。 目標の明確化と振り返り活動 研究授業を通しての授業改善 ミニ研究授業 等	「ふだん学校の授業以外にどれくらい学習しているか」の問いに対して30分以下の人数が2年生では32,7%と市の20,3%と10ポイント以上開きがあり、これは自主学習ノートを1ページだけしかやらない生徒がたくさんいることの裏返しであると思われる。自主学習ノートの内容の充実が課題である。 ・「友達の話を最後まで聞いている」は宇都宮市より5%あまり高い100%であるが、「話し合いに自分から進んで参加する」「自分の考えを根拠をあげながら話す」「物事をいろいろな視点や立場から考えている」は、いずれも5%～8%宇都宮市を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

基礎的事項の理解を深めることはもちろん、それを土台により発展的な内容へ取り組んでいこうとする意欲の醸成とその環境づくりを考え、準備していくことが大切である。具体的には自主学習ノートの質の向上があげられる。どうしても「1ページだけやればいい」的な安易な発想から漢字練習や英単語練習に走りがちな生徒が多くなっている。これらの生徒が自分の進路実現のための学習の「きっかけ」となるようなノート作りをめざしていきたい。

定期的に国・県・宇都宮市の調査結果を分析し、対策を話し合うことにより、学習指導上の課題を組織的に解決していけるようにする。特に授業改善の取り組みに力を入れる。